

第7日

平成25年9月9日（月）

午前10時零分開会

○議長（手嶋源五君） 皆さん、おはようございます。これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は20名で会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、6日に引き続き、一般質問を行います。

それでは、最初に6番中島秀樹議員の質問を許可します。6番中島秀樹議員。

（6番中島秀樹君登壇）

○6番（中島秀樹君） 皆さん、おはようございます。6番議員の中島秀樹でございます。朝一番の質問となりました。傍聴に耐え得る、聞きたいのある質問をしたいと思います。

あとは質問席より質問させていただきます。

（6番中島秀樹君降壇）

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） まず、質問前に、議長、上着は脱いでもよろしいでしょうか、だめですか。

○議長（手嶋源五君） はい。

○6番（中島秀樹君） じゃあいいです。じゃあ済みません、このままやらせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 空調入れとるそうですので、お願いいたします。

○6番（中島秀樹君） 大丈夫ですか、本当に。余りあれですね、わかりました。じゃあこのまま。

では、済みません、質問をさせていただきます。

まず、冒頭に2つ、私の経験から物を言わせていただきます。「やられたらやり返す、倍返しだ」、これは今、視聴率1番のTBSの日曜劇場ですが、副市長、このドラマのタイトル、御存じでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 存じ上げております、「半沢直樹」でございます。きのうも拝見しました。

○6番（中島秀樹君） ありがとうございます。済みません、つかみでちょっと要らぬ質問をしてしまいました。

これは直木賞作家、池井戸潤さんが書かれました「オレたち花のバブル組」「オレたちバブル入行組」、これが原作本となっております。私も銀行出身でございます。私が入行いたしましたのは、バブルの少し前でございました。しかし、バブルのころというのは、私は経験をしております。土地が右肩上がりでどんどん上がって、我先にと銀行が融資し

ました。ちょっと危ないんじゃないかなとか、性急じゃないのかなとか思ったりしましたが、
「乗りおくれるな、何をそんなこと言ってる、時代がそういう時代なんだよ。」
そういうふうに言われまして、物が言いづらいような雰囲気があったような気がします。

次に、私が銀行をやめまして選挙に出るときの話です。「今度、銀行をやめて市議員
になろうと思うんだけど、どう思いますか。」「おう、やれやれやれ、あんたやったら
トップ当選間違いなしだ。」と言うAさん、「あんた、銀行やめて落選したらどうするの、
子供が路頭に迷うんだよ、そこまで考えてやってるの。」と言うBさん、私はやはりBさ
んの意見を尊重したいというふうに考えております。

英語でwet blanketという言葉があります。ぬれた毛布です。熱い火にいきなりぬれた
毛布をかける、日本語で訳すと興ざめなとか、けちをつけるとかいいいます。パーティーが
盛り上がってるときに、「アフリカでは何人の難民が死んでると思ってるんだ。」とか、
そんなことを言うようなやからですかね。ですけれども、私は市議員に出たいんだと、
非常に気持ちが高揚してるときに、何でそんな落選したら路頭に迷うかもしれないから冷
静に考えろとか、そういう興ざめをするようなことを言うんだらう、がっかりしたのも正
直な気持ちです。ですけれども、やはり物は複眼的に考えないといけません。私は常日ご
ろ、自分の子供たちに2次的に考えろと言ってます。1次的に起こる現象、そして2次的
に起こる現象、物事にはコインの裏と表、いいこともあれば悪いこともある、メリットも
あればデメリットもある、そういった思考方法を身につけなさいというふうに私は子供に
言い聞かせてます。

東京オリンピックが決まりまして、2020年、あと7年後、オリンピック、私も見に行き
たいというふうに思っております。今、日本がオリンピックに向かって1つになって突き
進んでると思います。本当に夢がある、ストーリーがあるというふうに思っております。
本当に私はよかったなと思っております。朝倉市もホークス誘致に手を挙げましたので、
夢に向かって突き進んでいかなければなりません。私も市議会として議決をいたしました
ので、応援するという事で、議会のメンバーとしてホークスの誘致については応援をさ
せていただきます。

しかし、少し冷静になって物をやはり考えていかないといけないのではないかと。今回、
私はキーワードとして、「情熱と戦略」、これを挙げさせていただきます。情熱、熱意は
大事です。ですけれども、東京が招致に成功したのは、やはりそこに綿密な戦略があったか
ら成功したんだと思っております。東京は2016年のオリンピック誘致の失敗の経験を生か
して、何がいけなかったのかというのを冷徹に分析したからこそ、今回の成功があったと
いうふうに思っております。ですから、私もどういう状況がいいのか、どういう戦略でこ
れから誘致をやっていくのか、そういったことを今回、質問させていただきたいというふ
うに思っております。

では、まず1番目に質問させていただきます。きょうは傍聴の皆様もいらっしゃいます

ので、議会で一度、御説明いただいた件かもしれませんが、市民に状況を明らかにするということで、一旦聞いたことも御質問しますこととお許してください。

まずは、これからのソフトバンクホークス誘致に当たりましてのスケジュールをお尋ねしたいと思っております。1次募集、それから2次審査ですか、それから最終決定、そこら辺があるというふうに新聞では、読みました。そのスケジュールを説明していただきますようお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） スケジュールですが、まずソフトバンクホークスに対しまして、朝倉市はこういう提案を申し上げますといいます、そういった提案書を出す必要がございます。その提案書の締め切りは9月の中旬でございます。9月の13日が締め切りです。それから9月の下旬に第1次審査がございます。それに選考といいますか、選ばれますと、10月の初旬に第2次審査、これはプレゼンテーションと言われております、それがございます。それを経まして、10月末に優先交渉権者へ通知というような日程になっております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） まず、お尋ねいたします。市民の間では手を挙げるのが遅いという意見が出ております。もっと手を早く挙げたほうがよかったんじゃないかということで、それこそ船に乗りおくれるなということで、慌てて飛び乗ったんじゃないかという声が出ております。これは明確に否定しなければいけません。なぜ手を挙げるのが遅くなったのか、これをお聞きしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） まず、先ほども言いましたように、提案する必要があるということがまず第一になるわけなんです、その提案に当たりまして、球団の条件がございます。その条件をクリアするためには、約7ヘクタール以上という広大な更地を来年の夏までに確保することが必要になってまいります。それから、そういう確保するためには、可能性がある土地の選定と、その土地の所有者、それからさまざま関係者がおられますので、その調整が必要であります。当てもなく軽々に手を挙げることはできないというふうに考えました。手を挙げる際には、誠実に、責任を持って手を挙げるべきだと考えております。そういったことがございますので、責任を持って行動をとった結果、あの時期になったということでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 副市長、市長にお尋ねいたします。私は、これ済みません、内輪の話になるかもしれませんが、市長は新聞報道が出ました8月の3日に、すぐ担当課のほうに調べろということで指示を出したというふうに聞いております。しかし、手を挙げ

るのは随分遅くなってしまいました。ですから、市民の方は、余り市長はそもそも乗り気ではなかったんじゃないかと、こういう声も聞こえてまいります。この点について市長のお考え、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、中島議員言われるように、8月3日の報道、新聞の朝刊でございましたけれども、それにいわゆるソフトバンクホークスのファームの本拠地を公募するということの記事が出ました。それを受けまして、これはたしか土曜日やったかな、3日の日は、たしか3日の日が土曜日でありましたので、5日の日、月曜日に市役所に参りましてすぐに、新聞の報道だけでは内容がわからないということで、まず情報を集めなさいということで指示をいたしまして情報を集めました。その後、いわゆる先ほど申し上げました新聞の情報では4ヘクタールから6ヘクタールという話でありましたけれども、実際はそれでは面積が足りない、そして、おまけに先ほど申し上げましたように、28年度から使用しなきゃならんということでもありますから、逆算をいたしますと、来年の夏には工事にかからなきゃならんという状況がございます。そうしますと、少なくともそれまで更地ですぐに工事ができる、そして、おまけに約7ヘクタールほどの面積の土地が必要であるということになってまいりまして、それでは朝倉市内にその条件に合うような土地がどういふところがあるかということ調べてもらいました。

複数出てまいりました。その中で、農地を今からいわゆる転用等してますと、とても間に合わないだろうということで、現在、農地である部分については全て対象外ということで、最終的に2カ所が候補地として残りました。この2カ所につきましても、1つは民有地、企業が所有する土地であります。これにつきましては、その所有する企業の詳細を得ないと手を挙げるわけにはいかないと。そして、もう一つが、最終的に誘致を決定いたしました朝倉農業高校の跡地であります。これにつきましては、中島議員、もうよく御存じのように、随分前からこの土地の活用については議会の皆さん方の多くの議員の皆さん方からも質問いただいておりますし、それまでのいろんな関係の方々がいっぱいいます。まずは校友会、6ヘクタールの土地を築いていただきました校友会の皆さん、実際、活用するということで、今、計画が進んでおりました。そういった中で、いわゆる市だけでやるんじゃなくて、いろんな民間の人たちも一緒に入ってもらって活用しようということで取り組んでおりましたんで、その話を持っていった相手方もいっぱいいます。ですから、その人たちの了解をいただかないと、朝倉農業高校の跡地を活用しますということを軽々に発表するわけにはいかないとということで、そういった方々に御相談申し上げました。了解をいただいて、結果的にはあの時期になったということ。遅いんじゃないかという話がありましたけど、私は決して遅くないというふうに思ってます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 何もソフトバンクの誘致に関しましては、早い者順とかいうのは

新聞には書いてありませんので、別に早く出したからといって有利になるということはありませんので、それはそれで市長のお考えでじっくり責任を持ってやるということであれば、それは私は戦略として正しいのではないかなというふうに感じております。

ただ、市長が余り乗り気じゃなかったんじゃないかと、手を挙げるの遅かったから、そういったイメージといいますか、声もありますので、それはこれから運動によって明確に否定をしていって、市一丸となって誘致を成功させるべくやっていかないといけないというふうに私は考えております。

次に、署名活動を、今、やっておりますので、議員団も署名用紙を預かりました、署名に行きます。すると、ある市民の方から、「素朴な疑問なんだけれども、朝倉市にホークスのファームが来たらどうしていいの。」ということ聞かれました。どういったメリットがあるのと聞かれました。「いや、朝倉市が名前が売れるじゃないですか、ホークスのファームがある朝倉市ですよ。」ということ言ったんですけど、でも、確かにどういったメリットがあるのかというのは、ある意味、議会としても、それから市としてもやっぱり共通認識というのは持つとかなないとかなのじゃないかなというふうに感じております。その誘致の狙い、それをお尋ねしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 一言で申しますと、大きな地域活性化が見込めるというふうに考えております。具体的には、まず経済効果というものもございしますが、経済効果につきましては、拠点球場を建設する際の経済の波及は考えられます。また、実際に運営するときには、例えば選手寮での食材とか、球場や施設がございしますので、その管理に要するさまざまな経済波及があるのではないかと。それから、観客動員による地元の商店とか直売所などでの売行き増大も期待できる。それから、観客を観光地へ誘導するといったさまざまな民間の取り組みが生ずると考えられます。こういったことも経済効果になるんではなかろうかということがありますが、それだけではございまして、選手との交流を通じまして、子供たちの元気、夢を与えるとか、選手とその家族を市民が育てる、野菜、フルーツを通じた交流など、選手との交流が活性化に役立つ。それから、観客との交流を通じまして、市民の応援団を一緒になってつくとか、観光地へのまた誘導ができるということです。それから拠点があるということで、議員もおっしゃいました市の知名度が上がるとか、球団と連携した物産の振興などもできるんではなかろうかというふうに思っております。そのほか、さまざまな活性化効果が見込めるというふうに考えております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） こういうことも言われました。朝農跡地にホークスを誘致することで、もう場所は限定されております。「そこには企業が来たほうが雇用もふえるし、そっちのほうがいいじゃないと。」と。「ファームは2軍、3軍があるところは、

あそこはあくまでも道場なんだと、1軍の役者さんがいるのは宮崎のキャンプであって、そこにはたくさん人が見に行くかもしれないけれども、道場にはそんなに見に行かないんじゃないか。」と。「そんなに経済的効果が上がるの、雇用がふえるの。」ということを知りました。

副市長、私、雁ノ巣というのは実は行ったことないんですけども、雁ノ巣が物すごく潤ってるとかいう、あくまでもイメージで申し上げてんですが、そういったイメージはなくて、本当に経済効果があるのかなというふうに明確な反論ができないんですけども、副市長、そこら辺はどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 雁ノ巣につきましては、私も一度、見に行ったことがあります。やはり例えばドラフトで有望選手が入ってきたときあたりなんかは、やっぱり一時的に大勢のお客様が詰めかけるといった状況は見たことがございます。実際、経済的な効果が見込めるかということでございますけども、私どもとしては、今、課長のほうから申し上げましたように、期待を込めてもろもろ造成、建設のときから始めて、その後、いざできた後には運営面での経済効果、さらには地域活性化という面で地元との一体感、あるいは機運を高めるということ、特にソフトバンクは地元との触れ合い、交流を大切にしているということを聞いております。そういった面で直接的に市にとりましても税収の面で直接的に寄与するところはあるんですけども、そういった市民との一体感、チームとの交流、触れ合い、そういったものの期待をいたしてるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） オリンピック招致が決まりまして、済みません、ちょっと数字がうる覚えなんですけれども、あるシンクタンクの計算によりますと、オリンピックの招致効果が3兆円。日本のGDPが500兆円、それに比べてわずか3兆円だと。昭和39年の発展途上のときだったらともかくも、成熟した日本にどれだけの経済効果があるのかというような疑問を呈する声もあります。しかし、私はやはりオリンピックが東京に決まりまして、多分、皆様も気分が高揚したと思います。何か1つの目標に向かってやってやろうという気持ちになったと思います。私はそういった効果があるんじゃないかなと、朝倉市にホークスが来れば、そのプロセスも大事なのかなと、そういう研さんを積んでやっていく、そういったことは今までありませんでしたので、そういったプロセスも私は朝倉市の財産になるというふうに考えております。そういった意味で、先ほど課長のほうから出ましたように、観光地に人を誘導するとか、そういったこともやはり一段と拍車がかかって、磨きがかかるというふうに考えております。

では、市長の御答弁のほうからもございましたように、これも言われました。「大体、今まで朝農の跡地はやっと5つのゾーンができて、農業団体が、JAと言っていいんですね、JAさんと覚書を交わして、ある程度、方向性が出たのに、何でそれを突然変えて

ホークスなんだ。」と。これはもう農家の方なんですが、農業のほうを大事にしないと、朝倉市は農業やろうもんということを言われました。そして、「ホークスが大体どこら辺に入るの。」と言われました。あそこ全部、球場になるのと言われました。確かにどこのゾーンに入るんですかねと、全部は使わないと思うんですけれども、どういった、農協さんとホークスさんですかね、それとも体育施設とホークスさんですかね、そこら辺、私、明確に答えられませんでした。

まず、2つ御質問いたします。まず、今までの朝農の基本計画、そして今まで経緯があったと思います。それを変えたその整合性、それが1つ。

それと、実際にホークスが来たらどういった完成図になるのか、その概略のイメージだけでもいいですからいただけたらというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 朝農計画を変更したことになりますが、経緯を申し上げますと、校友会のほうから市民のために有効に活用されたいという思いから無償で寄附を受けたと。残りの半分につきましては福岡県から購入したということで、最善の活用方法を議論を進めておったという時期でございました。その折に今回のお話があり、諸条件について調査研究を行い、課題を整理し、自信を持った内容で提案していきたいというふうに考えとるわけですが、朝農計画、先ほど言いましたように、市民のために有効に活用することがございますので、寄附の思いもそういう思いがありました。朝農計画につきましても農を中心としてということはございましたけれども、市民のために有効に活用するという基本的な考え方がございますので、大きな目線、全体の考え方から言いますと、整合性はとれてるというふうに思っております。

どういった完成図になるかということでございますが、先ほど校友会のお話しいたしました。その中に寄附をした折に、大変思い入れのある土地だということもございました。ですから、例えば入り口付近とかイチョウ並木がございます、それから記念公園の整備もしたところがございます。それから農業にしている部分とかが、一部活用してる部分がございますので、そのあたりについては残してほしいといいますが、配慮してほしいというようなことがございました。現在、その全体の構想につきましては、そういった入り口付近、旧386号付近の配慮をできるだけしたいというふうな思いもありますが、全体の例えば球場が2面入るとか、選手寮が必要だといったことがございますので、あの土地が結構いびつになっておりますので、そこを球場2面とか、選手寮とか、そういったものをいろいろ並べかえながら、またきちんとしたものはでき上がっておりますが、そういった球団の要望する施設が全部入ることと、校友会の思いといったものをきちんとあわせたような配置を提案するというふうにしたいと。

ただ、これは提案といいましても、こちらはそういった球場が入るといったものでございますので、実際にはソフトバンクのほうで一番いい形とか、人の動線といったものを考

えるということになります。ですから、こちらといたしましてはこういう素案といいますか、こういう入りますよといった基本的なことを提案するといったものになると思っております。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 概念としては今のようなものだと思いますが、少し具体的な話をせんとわからないと思いますけども、例えばインフラ整備につきましては、いずれせないかんことですが、それを前倒しでできないかということのを連夜にわたって関係課と打ち合わせして、できるだけ前倒しでやろうということで、これがソフトバンク来なくてもせないかんところは特に重点的にやろうということで、あるいは経済効果と別ですが、二重投資にもならないようにということには財政とも協議しながら進めてるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 済みません、同じ質問になるかもしれません。やはり市民の間からは、「突然、ソフトバンクというような感じで、やはり朝農跡地にソフトバンクが来るというのは唐突である。」と、そういった感想を正直持つて方もいらっしゃいます。それについて私も議員として説明を求められたときに、ちょっと言葉に詰まるというのが本当のところでございます。市長は校友会等に説明をされたということも聞いてはおりますが、その唐突であるということについて、市長の思いをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 唐突です。そもそも8月3日の新聞で出て、それからの話ですから、市民の皆さん方が唐突だと思われるのは当然だというふうに思ってます。しかし、その中で、市としてソフトバンクのファームであったとしても誘致することが市にとってどうなのかということのを十分検討した結果、今回、朝倉農業高校の跡地に誘致をしようということで決したわけでありまして。それについて、先ほどソフトバンクを誘致することの意義、先ほど課長が答弁いたしましたけども、それともう一つ、私なりに考えておりますことは、朝倉市が合併して誕生いたしました8年目になりました。一般質問なんかによく出てきますけれども、一体感という話がよくあります。このホークスのいわゆるファームが朝倉市に参りますと、例えば杷木の住民の方、朝倉町、旧ですよ、旧甘木市の住民の方も、朝倉市にはソフトバンクホークスのファームがあるんだという1つの共通のものができてまいります。そのことは、ひいては市民の一体感の醸成にもつながっていくもんだというふうに考えております。

それともう一つ、十分答弁に答えてない分がありましたんで、私のほうから答弁させていただきますけれども、いわゆる今まで相談をしておった、朝倉農業高校跡地についての活用について相談をしておったところについて、それよりもソフトバンクのほうが大事なのかと、農業はどうでもいいのかという話が聞かれたということで、いや、農業も大事で

す。ただ、当然、今まで話してきた中で、その団体、その個人との、政治の一番の大事なところはやっぱり信頼ということだろうと思うんです。そのためには、もし幸いにして、もう絶対そのつもりでおりますけども、幸いにしてソフトバンクがその土地、恐らく全部ほとんどそれを提供しなきゃならんという形になると思いますけども、そうした場合、今まで話しておったそういったところについては、市も責任を持っていわゆる農協がやろうとしておったことについては全力で協力をしていくということでもあります。そういうこともありまして、皆さんが心配された遅くなったという形になったということは御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） ソフトバンクと農業を両立するという市長の強いお気持ちを聞かせていただけたというふうに理解いたします。両方とも成功させなければいけないというふうに思っております。先日、議会もはっぴを着て議決をさせていただきました。幸いにも新聞に取り上げていただきまして、それなりの発信力を出せたのかなというふうに思っております。ただ、私はやはり議会として執行部の皆様に、日ごろ発信力を出しなさいと、発信力を身につけなさいということを申し上げておりましたので、今度は議会として発信力が出せるところを見せるべきだという形ではっぴを着ることに賛成をさせていただきました。私はやはり市民の中では唐突ですので、いろんな意見があると思ってるんです。市長はこれからはっぴを着られて、あちらこちら回られると思うんですけども、やはりその都度、こういった思いなんだということは僕はお伝えになったほうがいいと思います。特に一体感の醸成、この部分については、私が経済効果が幾らあるんだとかというような質問をいたしましたけども、こういったものには換算できない非常に価値がある、意義のある考え方だというふうに思いますので、ぜひとも誘致に成功していただきたいというふうに思っております。

では、先ほど、私、言いましたけども、メリットとしてはいろいろ一体感の醸成であるとか、経済的效果であるとか、観光地への誘致などの 2 次的な経済的效果、子供の教育に対する効果、それから、朝倉市にはホークスがあるんだ、ファームがあるんだという誇りが持てるという効果、こういったものがあるというふうに考えております。

しかし、いいことばかりではないと思っております。デメリット、どういったものがあるのか、そこら辺もやはり考えていかないといけないのかなというふうに思っております。特にインフラの整備なんかでおりますと、私の地域である金川地区では、やはりインフラ整備につきまして意見調整をしないといけない部分も出てまいります。そういった意味で、デメリットと言ったら変なんですけど、越えなければいけないハードル、ソフトバンクが来るに当たりまして、こういったものは何があるか、お示しいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 越えなければいけないハードルといいますものは、まず

審査に当たりまして提案をしていくわけですが、どれだけの提案をできるかといったことになろうかと思っております。例えば球団はどういった視点で選定するかといったことを、まずこちら側として考えておかなければならないというふうに思っております。やはり球団といたしましても経済的なことは大事ですんで、ホークスファン、ドーム観客の増に役立つ自治体であるかどうかというものをまず見てくるのではなかろうかと思っておりますので、そういったオール朝倉体制でありますよといったものをどれだけのできかと、市がどれだけ一丸となり得るかといったことを今からという形になります。12日に決起集会もありますけれども、そういったところを醸成するといったことであります。

それから次に、先ほど話がありますように、来年の夏あたりまでに施設を、施設といいますか、施設に着工できるように、ソフトバンクの施設が着工できますように更地を提供しなければなりませんので、今、朝農跡地には施設があるといったものをきちんと取り壊す、そしてインフラ関係もきちんと提供していくというようなことになろうと思っております。そのためには関係地域、周辺住民との調整も必要になってくるでしょうし、それから、その取り壊しなり整地をするためには、かなり短い時間でしなければならないということになりましようから、そのあたりについても市内、庁舎内が一丸となって取り組むといった体制が必要になってくるというふうに思っております。今、言いましたようなことがクリアすべき課題だというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 私がソフトバンクの社長さんといいますか、球団経営者、孫さんだったりしたら、各自治体が名乗りを上げている、そういった中で、やはり経営者として一番投資が少なく、ソフトバンクにとって有利になるようなところ、ある意味、条件がいいところに行きたいと思うのが普通じゃないかなというふうに思います。そういった中で、やはりこれから厳しい闘いをしていかないといけないわけです。まずは5つの優先交渉先ですか、5つほどの優先交渉先に残らないといけないというふうに。

（発言する者あり）

○6 番（中島秀樹君） 済みません、優先交渉先に、5つというのはちょっと私が勘違いしておりました。優先交渉先に残らないといけないというふうに感じておまして、勝ち残らないといけない。そういった中で、競争は私、熾烈だというふうに思っております。そういった中で、朝倉市の何を訴えていくんでしょうか。どこを売りにして勝つんでしょうか。私、銀行員でしたので、企業にお金を貸すときに稟議書という書類を書きます。書いてて、人の書いてるのを見たりすると、迫力のあるのとないのとあるんです。この企業は大丈夫かな、いけるのかな、ひょっとしたら潰れるかもしれないのかなというような自信がないような稟議書というのもありますし、また、逆にこの企業は必ず大丈夫なんだと、社長も立派な人で、業績もこれから伸びると、そういった力強い稟議書、これは文章から伝わってまいります。朝倉市が選ばれるためには、やはり力強い書類を出さないといけな

いというふうに考えております。そういった中で、どこを売りにして書類を出されるんでしょうか、また、力強い稟議書を書かれるんでしょうか。課長、書かれますよね、力強い提案書を。じゃあどこを売りにするのか、こういったところをアピールするのか、教えていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 提案するに当たりましては、なぜ朝倉なのかということ強くアピールすることが大変重要になってくるというふうに思っております。それにつきましては3点ほど考えておまして、1つは、オール朝倉ということ強調したいと思っております。チームとか球団への支援、応援が確保できるといったことでございます。

2点目といたしましては、豊かな自然、穏やかで純朴な人々、そういったよい練習、試合環境が確保できますよといったものを強調したいと思っております。

3番目に、アクセスがよい、選手や観客の移動に3つのインター、それから甘鉄、西鉄、公共交通があるといったことも言っていきたいというふうに思っております。

そういった基本的な考え方としてはそういったものをもとに、具体的な中身をさまざま提案していくといったことになろうと思っております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 書類の準備のほうというのは、もう着々と進んでおまして、それなりの自信がある書類を課長、準備できてるんでしょうか、もう一度、お尋ねします。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 今、作成中でございます。さまざまな庁内の部署、それから、よければ議員の意見等も織り込みながらできればいいのかなというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） まずはその提案書でございます。ぜひともいいものを書かれて、最後の最後まで粘っていただきまして、いい書類を出していただきたいというふうに思っております。

次に、今後の運動といいますか、誘致についての運動についてお尋ねいたします。市民のほうからは、やはりいろんな団体が盛り上がり、ある意味、ボランティアといいますか、自然発生的に組織ができてやってあるところがございます。もう少し、市が音頭を取ってくれたらいいんじゃないかなと、人手が足りないとかいうような声も聞こえてまいります。また、議会のほうに対しても、あんたたち議員ももっと表に出るべきじゃないかと、そういうお叱りも受けました。ただ、行政が音頭を取ってやれば、やはりまとまっていきやすいのかなというふうには考えております。こういった今後の運動を展開していくに当たりまして、例えばホークス誘致特別課とか、そういった組織をつくるなどというふうなお考えがあるのか、また、そういったお考えがなければ、こういった形でこの運動

をリードしていくのか、これをお尋ねしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 現在、市役所の中でホークスの問題について中心的にやっておりますのは秘書政策課であります。先ほど民間のほうとの調整、話ございましたけれども、特に主だった団体ほか、連絡をとりながらやらせてる、それがまだ十分でないということであれば、今後もやっぱり一層密に連絡をとり合いながらやっていきたいというふうに思ってます。特別の課をつくらないのかという話ですけども、残念ながら今の時点では人的な問題がありますんで、今、あえて言うならば、それに担当してるのは秘書政策課の朝倉農業高校の跡地を今までずっと取り組んできた係がその担当という形になろうと、併任辞令を出そうかという議論もありますけれども、まだどうするかということについては現在はまだはっきり決めてはおりません。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 市民との窓口は、では秘書政策課ということになると思います。書類も書かないかん、運動も盛り上げないかん、これはかなりの仕事量だというふうに思いますが、これについてはやはりできますかね、何かちょっと難しいんじゃないかと、重労働で、本当、寝る間も惜しんで働かないといけないような形になるんじゃないかなと思います。もう一度、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 書類を書くに当たっては、当然、秘書政策課中心になりますけれども、関係の部、課については定期的に、頻繁に連絡をとりながらやっておりますんで、そういう面では市役所全体で取り組んでおるというふうに理解をしていただきたいというふうに思います。提案書を間に合うんですかねという話ですけども、間に合います、当然。どうあろうと、それは大変なのは大変だろうと思います、職員は、冗談で徹夜してでもやってくれと、あくまでも冗談です、命令じゃないです、という形で、冗談とも本気ともつかんとこでありますけども、そういう話で職員にはしっかり頑張っていただいております。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 私も冗談ですけども、徹夜してでも、やっぱり書類はいいものをつくっていただきたいというふうに思っております。

では、新聞では、市がこの運動を盛り上げるために、1 階フロアの職員がホークスのはっぴを着てアピールをするということを書いてあったんですが、済みません、私、ちょっときょう 1 階をよく見てなかったんですけども、もう既に着てるんでしょうか、それともいつから、もし着てないとしましたらば、いつから着るんでしょうか、お知らせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） 本日から着ます、着てます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） これは1階だけのフロアということですので、一番、市民の方が来られる窓口ということではなさっていると思うんですが、では、1階のフロア以外の方、この方についてはどういったアピールといいますか、市民向けのアピール、それとか、極端に言うと、手伝ってほしかったりしたら、市民の方は職員の方にこれを手伝ってくださいとか、こういうことあるんですけど、どんなふうで、相談したりとか、そういったこととしていいんでしょうか。1階の方ははっぴを着てももちろんアピールをなさると思うんですが、ほかの職員の方はどういった形でこの運動を盛り上げていく、どういうふうに私たちは理解したらいいんでしょうか、お尋ねします。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） まず、この場所が決まった折に、市長が各職員宛てに庁内のメールを出されました。各職員、一丸となって進むようにということと、何か提案といいますか、運動を進めていく上でいいアイデアがあれば、どしどし出していただきたいという市長からのメールでございました、全職員に発信をしております。そこから始まったわけですが、私どもの取り組みといたしましては、さまざまな運動をするということと書類をつくるということがございますので、まず技術系の職員、そちらについては、例えば上下水道とか、道路の建設とか、都市計画とか、そちらの職員については私どもの書類作成に全力で協力していただきたい。それから、そのほかの一般の職員でございますけれども、12日に決起集会がございますので、そこへの参加をぜひお願いしたい、呼びかけをお願いしたいことをしているところでございます。また、今後、大きな集いを開催できたらいいなというふうにも考えておりますので、そのあたりの周知とか、さまざまなアイデアを職員から募るといったことになろうかというふうに思っております。それから、ポスターとかチラシとか、私ども多くの分を作成をいたしましたので、はっぴ、ポスター、チラシを活用したさまざまなよそに出て行くときにはそれを利用するといったようなことも運動の1つになるのかなと思います。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 今、署名活動を民間の方がなさっております。この署名活動について、市のかかわり方といいますか、これはどういったスタンスをお考えでしょうか、あくまでも民間の方主導でやっていただいて、市は何かあったらお手伝いをするというような考え方なのか、それとも、ある程度、市がリードをしてやっていくお考えなのか、この署名活動についてのスタンスをちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田 浩君） この署名活動につきましては、しておりますのは福岡ソフトバンクホークスファーム本拠地朝倉誘致の会といったものが集めるんですけれども、まず署名の開始に当たりましては、すぐにでも開始しなければならないということで、そ

の会の構成メンバーといったものがまだまだ今からふえてくるというような状態から開始をいたしました。そういう中で、この署名活動をしようとか、どういう形でしょうといいますが、先ほどの会と打ち合わせをしながら進めていったと。役割分担でございますけれども、その会のほうで、これはＪＣ、青年会議所とか、商工会議所の青年部の役員といいますか、会長といったものですが、役割分担をしたと。私どもがあの署名の用紙を全て印刷をいたしました、何万枚といった形になります。それから、その配布につきましては、市の関係機関であります市が配布をいたしますし、事業所、その他の団体についてはそちらの団体のほうからするといった役割分担をしております。短い期間でございます、これにつきましては、署名につきましては、この提案書の中にも短い期間にこれだけ集まりましたといったことをしようございますので、まず１回目の締め切りをして、第２回目の締め切りは、またその後といったことも考えております。そういった考え方で役割分担で署名を進めております。

○議長（手嶋源五君）　６番中島秀樹議員。

○６番（中島秀樹君）　署名に関しては役割を分担して、市は市なりの役割を果たしていくというようなお考え方だというふうに理解いたしました。

では、今度１２日にホークス誘致の集まりがございます。ピーポートでしますので、１,０００人近くの人が集まったらいいなというふうに私は思ってるんですが、先ほど課長の中から、集まりについてちょっと考えていきたいみたいなことを少し言われたんですが、その集会、そういった集まりという言葉が出ましたが、それは１２日の集まりをお考えなんでしょうか、それとも、また１２日の集まりが成功いたしましたら、もう一つ、今度は大きな集会を例えば市が主導でやっていくとか、そういったお考えはあるのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君）　秘書政策課長。

○秘書政策課長（鶴田　浩君）　こういった大きな集まりはさまざまなか所でしたいと。その集まりに関して言いますと、例えば２３日に、これはスポ少の全体会がありますので、その時間を通じて子供たちの結集といいますか、そのあたりもすると。その後につきましても集まり、できれば、これはもう期間とか場所とかを設定しなければいけませんので、それができればという条件つきではございますが、多くの集まる集いといったものができればいいなと、今の段階ではそういうふうに思っているところでございます。

○議長（手嶋源五君）　６番中島秀樹議員。

○６番（中島秀樹君）　やはり人が集まって、それぞれの思いを確認し合うといいますか、今はやっぱりばらばらばらばら、皆さんそれぞれ感じてありますので、そういった集会の場で、ああ、これだけの方がやはり期待をしてるんだ、夢を持ってるんだというのを確認する場というのもやはり必要ではないかなというふうに思っております。後半戦の部分でも結構ですので、そういった中でそういったのを企画していただければ、それこそ朝倉市

が一体感を持てる1つの機会になるのではないかなというふうに考えております。

時間も少なくなってきました。最後に、私は夢ということでお話をさせていただきたいというふうに思っております。ホークスのこの誘致のことをある方と話してましたら、野球をしている大人の方といいですか、中年の方から、自分も若いころ、野球をしてた、所沢から転校生が来た、自分の野球チームに。自分はそのときはピッチャーで4番で、野球に対しては誰にも負けないという自信があった。ところが、そいつが来たら、グラウンドに入るときには頭を深々と下げて、人一倍、練習場を走った。自分はそいつが来る前までは、ただ、とにかく大人が頭下げろと言うから下げて、足跡をつけときゃいいやというぐらいのつもりで走ってた。練習もとにかく人の倍ぐらい練習した。どうしてそんなに練習をするんだということを聞いたらば、所沢で西武ですかね、西武の選手と、2軍の選手と交流があって、そういう姿勢を見せてもらって、やはり学ぶべきものがあった。やっぱり真剣にやらないといけないんだということでやったということなんです。その転校生から今度は甘木の人がそういった気持ちをもらったといいですか、「やはりプロは中島さん、すごいですよ、絶対子供に見せるべきですよ。」という話をいただきました。「自分はホークスが来ることは賛成ですと、ぜひとも呼んでいただきたいと思います。子供に夢を与えます。」というふうに言われました。

私はホークスをぜひとも呼んでいただきたいと思いますというふうに思っております。そして、まずは短い間かもしれませんが、一緒に夢を見て、誘致のために朝倉市が一丸になる、これは素晴らしいことだというふうに思っております。そして幸いにも最終候補地に残って、ホークスが本当に来るようなことになったら、やはり朝倉市にはホークスの2軍があります、知らないんですかというふうに私は胸を張って言いたいというふうに思っております。

私は市議会議員として、議会として十分応援をさせていただきますので、頑張っていたきたいと思います。ホークスの2軍には坂田将人君という地元出身の選手もいるというふうに聞いております。きっと彼も少年のためにいろんなものを持ってきてくれるというふうに思っておりますので、その日を楽しみにしております。お互いに頑張りたいと思います。

これで私の質問を終わります。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前10時58分休憩